

コミュニケーションツールを 超えた携帯電話

現代の人びとにとって、携帯電話はコミュニケーションツールとしてなくてはならないものになっています。また、さまざまな機能を備えた携帯電話は、もはやコミュニケーションのためだけのツールではなくなりました。日本の小中高校生は携帯電話をどのように使っているのでしょうか。

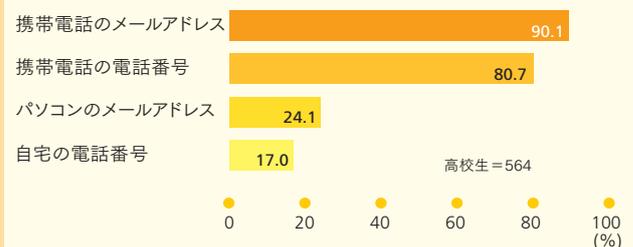
コミュニケーション

携帯電話で広がる交友関係

携帯電話を持っている日本の中学生は45.9%、高校生は実に95.9%に上ります。携帯電話での通話料が高いこともあり、中高校生は電話よりもメールのほうを多く使っています。携帯電話のメアドを交換することで友だち関係がスタートすることが多いようです。電話帳登録件数の平均は、中学生は48件、高校生は72件。学年が上がるにつれて、友だちの数が増え、交友関係が広がっていることがうかがえます。

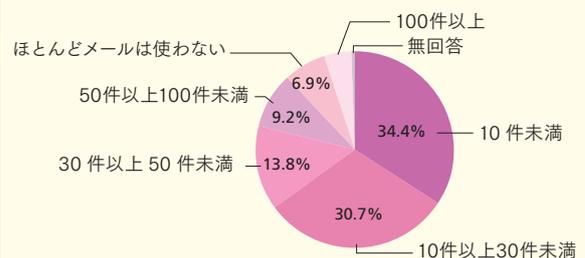
1日あたりのメール数は、中高校生ともに、10件未満がいちばん多く、ついで10件以上30件未満が多くなっています。大事なことを伝えるのにメールを使う高校生も多く、高校生にとって携帯電話は日常において友だちとコミュニケーションを図るのになくてはならないものになっているようです。

新しく友だちができたときに知らせる情報



資料：「子どもの携帯電話利用に関する親子調査」(平成21年、文部科学省)

1日の平均メール送受信件数



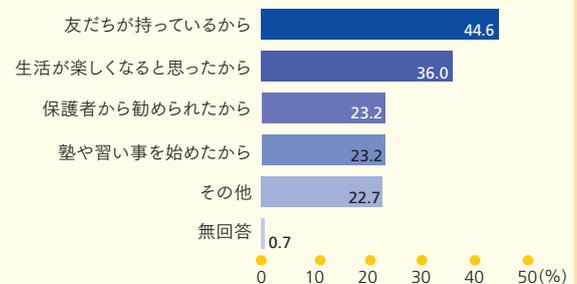
資料：「子どもの携帯電話等の利用に関する調査」(平成21年、文部科学省)

携帯電話をもつようになった理由

携帯電話所有の低年齢化が進み、文部科学省の「子どもの携帯電話の利用に関する調査」(2008年)によると、小学6年生の24.7%が携帯電話を持っています。携帯電話を持つようになった理由として、多いのは「親から持つように勧められたから」「塾や習いごとを始めたから」です。小学生の場合は、塾や習いごとに通うようになって行動範囲が広がる子どもの身の安全を心配して、いつでもコミュニケーションがとれるように親が携帯電話を買い与えるということが多いようです。携帯電話の使い方も家族に電話をかけることが最も多いようです。

それに対して、中高校生が携帯電話を持つようになった理由は何でしょうか。

携帯電話を持った理由(高校2年生)



資料：「子どもの携帯電話利用に関する親子調査」(平成21年、文部科学省)

ケータイ小説：携帯電話が生んだ新しい文化

携帯電話の機能の広がりによって、日本ではケータイ小説という新しいジャンルの文化が生まれています。ケータイ小説が最初に注目されたのは、2000年にYOSHIが発表した小説でした。ケータイ小説は、携帯電話で執筆され、携帯電話で閲覧される小説のことです。

口コミにより中高校生を中心に延べ1200万人の読者がアクセスしたといわれている『恋空』は、主人公である女子高生が一人の男子高生と出会い、人生が大きく変わるという話ですが、その気持ちの揺れの描写が若い女性を中心に大きな共感呼びました。2006年には書籍化され、発行部数は200万部を突破し、2007年には映画化され、興行成績39億円の大ヒットとなりました。2007年はほかにもケータイ小説が何本も書籍化され、ブームとなりました。ケータイ小説は、小さい画面の一行に書ける字数が限られていることから文章が短くてリズムカルであること、若者がよく使う表現を多用していることなどが特徴です。

一方、ケータイ小説は小説ではない、文学ではないと批判

する人もいます。尼僧で高名な作家の瀬戸内寂聴さん(86歳)は、ケータイ小説に批判的でしたが、若者の心を捉えているケータイ小説を知るために「ばーおる」というペンネームで「あしたの虹」というケータイ小説を書きました。シンプルなことばで若者の微妙な心理の葛藤を表現し、人を感動に導くケータイ小説の可能性に気づかされ、「ケータイ小説は文学の一種だと思います」と評価し、若者にケータイ小説で自由に自分を表現することを呼びかけています。

ケータイ小説という新しいジャンルが確立したことによって、誰でも自分が書いた小説を発表する機会が増えました。日本ケータイ小説大賞は2009年で4回目を迎え、ケータイ小説作家を目指す登竜門として浸透しつつあります。



ケータイで小説を読むことを想定してデザインされた。文章が縦書きで表示される。

デザインで携帯電話を選ぶ

中高生たちが携帯を選ぶとき何を基準にするのでしょうか。オリコンが2008年10月に行ったモニター・リサーチによると、50.5%の中高生は「デザインの良さ」を一番重視しています。一方で、それ以外の世代で一位だったのは「通話料金の安さ」です。中高校生にとって次に重要なのは、「メモリー容量の大きさ」(48.5%)です。メモリーを多く必要とする、写真を撮ったり、音楽を聴いたり、動画を撮ったりという機能をよく使うことが多いからでしょう。

そうやって選んだ携帯電話をさらにデコシールやビーズなどでかざってデコ電にしたり、好きなストラップなどを付けて、自分だけのオリジナルのケータイにする人も多くいます。

デコ電ショップ

Decorate → <http://www.decorate.co.jp>

Edo-X → <http://k-taicustom.com>

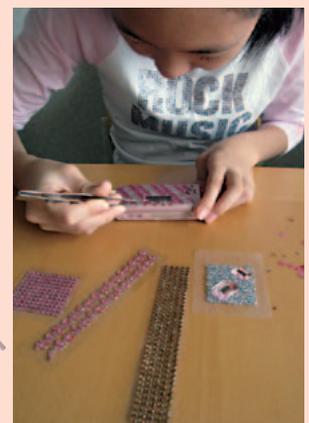


Art Editions: Kusama Yayoi

どのストラップとデコ電が好き？



Designed by Matsuyama Emi



携帯電話を安全に使うために

携帯電話をめぐる問題

携帯電話が中高校生の日常のコミュニケーションツールとして広がる一方、さまざまな問題も起きています。中高校生のなかには、メールのやりとりで夢中になるあまり、勉強時間が減ったり夜遅くなったりしている人がいます。また、メールで友だちとのコミュニケーションが深まる半面、メールを通じて何らかのストレスを感じている中高校生が増えています。「子どもの携帯電話利用に関する親子調査」によると、中高校生の8割以上が「メールの返信に30分以上かかったら遅い」と感じ、早急なメールの返答に追われている状況がうかがえます。さらに、中高校生の半数以上が「携帯電話メールが面倒

だと感じることもある」と答えています。また、携帯電話のメールを利用したいじめや、中高生が開く個人のブログやプロフに書き込まれた誹謗・中傷といった「ネットいじめ」も大きな問題となっています。

こういったことを防ぐために、文部科学省は2009年1月に、公立の小学校や中学校に携帯電話を原則持ち込むことを禁止し、高校でも校内の使用制限を行うように、方針を明確に示しました。さらに、警視庁も有害なサイトへの接続を規制するフィルタリング機能を装備するよう保護者に呼びかけています。

これ以上だと返信が遅くなると思う携帯電話メール返信間隔

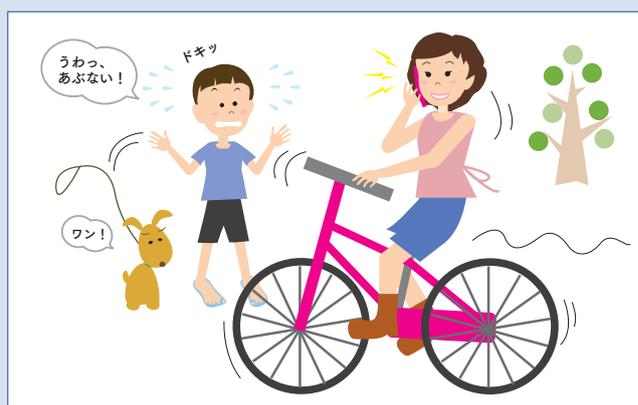
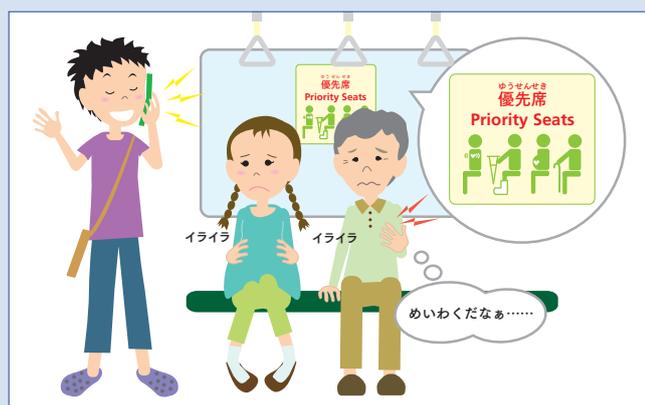
	1分以上	10分以上	30分以上	1時間以上	3時間以上	6時間以上	特にない
小学5～6年生 (n=59)	12.4%	65.6%	86.5%	93.1%	95.1%	95.6%	4.4%
小学5～6年生 (n=59)	13.0%	58.6%	82.8%	92.7%	94.6%	95.4%	4.6%
小学5～6年生 (n=59)	12.4%	65.6%	86.5%	93.1%	95.1%	95.6%	4.4%

資料:「子どもの携帯電話利用に関する親子調査」(平成21年、文部科学省)

携帯電話のマナー

日本では、公共機関でマナーモードにするか電源を切ることがマナーとされています。携帯電話が普及し始めたときには、電車のなかで大声で話す人が多くいて、その行為を注意したことがきっかけでトラブルになるといったことが時々ありました。そこで、電車の中では通話しない、マナーモードにす

る、また優先席付近では電源を切るよう注意を促す紙が貼られると同時に放送も流されています。自動車の運転中はもちろん自転車に乗っての携帯電話の使用も法律で禁止されています。



ケータイで得たもの、失ったもの

あかね……高校2年生、千葉在住

いずほ……大学1年生、東京在住

リサ……高校2年生、アメリカ在住



あかね

中学1年生からケータイを持っています。自宅から中学校までが遠かったので、心配した両親が買ってくれました。1カ月の料金は5,000円ぐらいで、両親が全部払ってくれています。



いずほ

第一志望の高校に合格したお祝いに、両親がケータイをプレゼントしてくれました。今使っているケータイは4台目です。1カ月の料金は8,000円ぐらいです。高校生のときは全部両親が払ってくれていました。今は、アルバイトをしているので、8,000円を超えた分は自分で払うことになっています。



リサ

交換留学生として、昨年9月に日本に来ました。中学3年生のときからケータイを持っています。アメリカにいる時は、一年分の通話費として、1万円相当のプリペイド・カードを両親からもらっていました。日本では1カ月に3,000円ぐらい使っています。

Q: ケータイはいつも持っていますか。また、よく使う機能は何ですか?

いずほ: ぼくは、だいたいいつもケータイを持っています。お風呂にも持って入ります。湯船につかって電話したり、音楽を聴いたりするのが好きなんです。お風呂で反響する音がいいんですよね。ぼくがいちばん使う機能は電話です。電話のほうがメールよりも気持ちがちゃんと伝わると思うからです。ゲームやスケジュール帳などいろいろな機能を使うのも好きですね。今、すごく夢中になっているのがGPSです。今日も、ケータイで地図を見ながらここに来ました!

日本では高校生の96%以上がケータイを持っています。ケータイはいまや高校生にはなくてはならない必需品となりましたが、使い方はさまざまです。どんなふうに使っているのかなどについて3人に話を聞きました。

あかね: わたしは学校に必ず持って行きますが、放課後まで電源を切っています。家に帰ってもいつも手元に置いておくわけではないですね。ケータイでは、メールと電話をよく使いますが、時々写真も撮ります。それから、電車の時刻とか映画の上映時間などを調べたりもします。

リサ: 学校にケータイを持って行くときもあれば、持って行かないときもあります。いつも電話で誰かにつかまるような生活は好きじゃありません。

Q: メールは誰とどれぐらいしますか。

あかね: メールを打つのが遅いので友達とはあまり頻繁にはしません。家族とはお互いに時々、メールをします。父からは全部ひらがなのメールがきます。父は仕事で帰宅が遅くて、ふだんあまり話す時間がありません。だから、父から「きょうのがっこう、どうだった?」というメールが送られてきます。妹は、「お姉ちゃん、大好きだよ!」といったメールを時々くれます。ちょっと照れくさいですけど、うれしいです。

リサ: わたしは1日に3回ぐらいしかしません。メールにすぐに返信しないと、日本の友だちは「何でくれないの〜?」ってよく言います。アメリカの友だちはそんなことないんですけど……。



ふだんは何気なく使っているケータイについてディスカッションする3人。ケータイの長所、短所について改めて考えた。

Q: メールでは絵文字や独特の文字を使いますか。

いずほ: 友だちは絵文字をよく使うけど、ぼくは使いません。絵文字を使うと、ぼくじゃないみたいでいやなんです。だから、友だちからは「怒ってるの?」って誤解されることがたまにあります。

あかね: 以前、絵文字を使わないでメールを送ったら、「これは冗談で言ってるの? それとも本気で言っているの?」っていうメールが戻って来ました。だから、ふざけて言っていることをちゃんと伝えたいときは絵文字を使うようになりました。

リサ: 英語のメールでも絵文字にあたる emoticon をよく使います。また、“forever”を“4ever”というように書いたり、単語を短くしたり、母音を省いたり、単語のつづりをわざと間違えて使ったりします。そっちのほうがかっこいいから。

Q: ケータイの欠点は何だと思いますか?

リサ: わたしがすごく嫌いなのは、ケータイで大声で話す人。アメリカでは教会や図書館、コンサートで電源を切り忘れる人もいます。

あかね: 電車でケータイのメールとかゲームとかに夢中になっている人を見かけます。席二人分に一人で座っていて、座りたい人がいるのに気づいていなかったりします。ケータイのせいで、人への関心が希薄になっているような気がします。

いずほ: 欠点は依存症になりやすいところだと思います。みんなで話をしながらご飯を食べているときに、ケータイをずっといじっているのを見ると嫌になります。GPSでも時刻表でも何でもケータイに頼って、自分でできなくなるのはこわいなあと思っています。でも一方で、ケータイの機能はすごくてケータイを手放せない自分があるんですよ(笑)。

あかね: それから、多くの人がケータイでプロフやブログをやっている、プロフに自分の顔写真を貼り付けたり、ブログで知り合った人と会う約束をしたりする人のことを聞きますが、それは危険じゃないかなと思います。

いずほ: 匿名だと何でも書けます。それは、自由ですけど、その半面すごくこわいと思います。ぼくの友だちにも、プロフですごく悪口を書かれた子がいて、すごく悩んでいました。相手がどういう気持ちで言っているのか全然わからないから、見るほうはいろいろ考えてしまいます。

Q: 明日からケータイが使えなくなったらどうしますか。

リサ: 夜、街を歩くのが少し怖くなると思います。以前、夜に渋谷で男性に10分ほどつけられたことがありました。すぐ友だちに電話をして、ずっと話していました。そうすることで安心できました。

いずほ: ぼくは、遠くの人と話したいときにすぐに話ができないのがいちばんつらいかなあと思っています。

あかね: 不便にはなると思いますが、わたしの生活はあまり変わらないと思います。でも、わからないことがあるときに、友だちにすぐメールして聞くことができないうちがいちばん困りますね。夜遅くて家の電話にはちょっとかけにくいときでも、ケータイのメールでなら聞きやすいこともありますから。

いずほ: でも、ケータイがなくなったら、いいこともいっぱいあるかもしれないと思います。まず、人としゃべることが多くなります。たとえば、GPSの地図がなかったら、人に道を聞きますよね。

リサ: ケータイがなくなったら、もっと自分に責任をもつようになると思います。友だちと待ち合わせをするときも、前もって場所をちゃんと調べたり、連絡がとれないから遅れないように余裕をもって出たりすると思います。

あかね: メール返信がなくて、心配になったり、仲間はずれにしたり、というようなことを時々聞きます。だから、ケータイがなくなったら人間関係がいい方向に変わるような気がします。

リサ: 結局は、みんなが自分の意思をしっかりとって、ケータイを使いすぎないようにすればケータイは楽しいものだと思いますね。



何もつけないシンプルなケータイ。友だちとつけたプリクラを貼ったケータイ。個性が表れる。

わたしの好きなもの

好きなことば

あかね: ありがとう
いずほ: 今を生きる
リサ: Smile often.

好きな色

あかね: エメラルドグリーン。海の色だから。
いずほ: 紫。なぜか、小さい頃から好きでした。
リサ: 薄いピンク色。美しい桜の花を思い出させてくれるから。

今、熱中していること

あかね: 映画を観て、その原作を読むこと。
いずほ: 日本舞踊
リサ: 日本語の勉強